

担当者から工事の説明を受ける2人の中学生

名取・閑上の復旧復興工事現場 中学生が体験学習会

東北地方整備局仙台河川国道事務所

日本大震災で津波被害を受けた名取市閑上で、中学生を対象にした復旧復興工事の体験学習会を開いた。復興の現場を実感してもらうだけでなく、若手人材の不足に悩む建設業界に興味を持つ彼らの姿が狙い。

学習会は名取川の防波堤工事現場であり、仙台市柳生中2年の鈴木悠矢君(14)と田中秀汰君(14)

が参加した。2人は施工業者の説明を受けながら、クレーンを使った重さ2トンのブロックの敷設作業を見学した。

作業員1人で位置を確定できる最新の測量機器を実際に操作し、地面に埋めたカプセルを探し出すゲームにも挑戦した。2人は「建設工事が社会に貢献できる仕事だと実感した」と話した。

仙台河川国道事務所の担当者は「建設業界は若年層の人材不足が深刻。今後も定期的に学習会を開催し、関心を持つてもうきつかけにしたい」と説明した。

自分の目で復興現場 見たい!



仙台河川

国土交通省仙台河川国道事務所は、名取川の堤防復旧現場で中学生を対象にした職場体験学習を実施した。若手の人材不足が課題の建設業界に興味をもつてもらうため、県内初の取り組

みとして県建設業協会の協力で実現させた。生徒2人が復興現場を見学し、ブロックの誘導などを体験した。

体験学習は、橋本店が施工する名取川災害復旧工事の現場であった。仙台市立柳生中学校2年生の鈴木悠矢君と田中秀汰君の2人が復興の現場を見たいと

体験先に希望し、

参加した。鈴木君は「どんな職場か

ピンとこなかった。

両親に自分の目で

見てくるよう勧め

られた」と話した。

2人は、橋本店

の中本一現場代理

人や作業員らの説

明を受けながら、

現場を体験。重さ

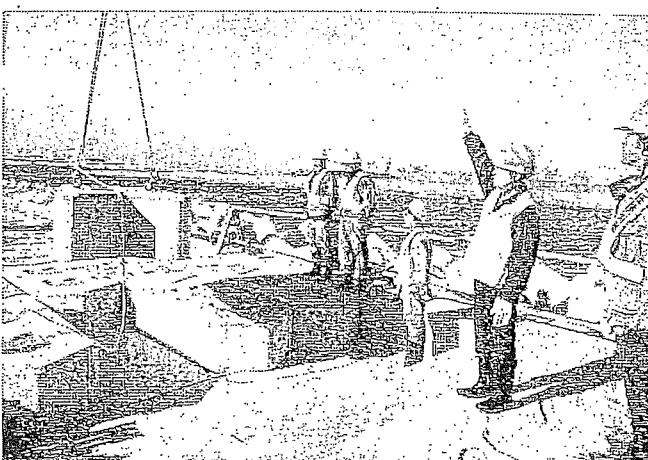
2tのコンクリートブロッ

クを誘導

し、通常はどのくらいのスピードで

タブレット端末型の測量機器に関心を示していた

名取川の災害復旧工事 中学生が職場体験



コンクリートブロックを設置場所まで誘導する田中君

献できる仕事」「多くの人のためのものすごいものを作っている」と感想を話した。

これまでの職場

体験は、土木を学ぶ高校生や大学生

が対象でより実践

型だった。橋本店

の中本現場代理人

は、「中学生の受

け入れはこちらも

初めての体験。建

設業は、作ったも

のが自分の名前と

ともに形として残る。ものづくり

の魅力を伝えていきたい」と

設置するのか作業員に質問する

場面もあった。

測量作業では、タブレット端

末型の測量機器を使って、地中

に埋めたカプセルを探り当てる

「建設業界は、復旧・復興工事

ゲームが好評だった。説明を受

けてすぐに測量器を使いこなし、

楽しかったと笑顔を見せた。2

人は体験後、「建設業は社会貢

同社土木部長の常前隆弘氏は、「建設業界は、復旧・復興工事に一丸となって取り組んでいる。少しでも現場に興味をもつてもいい、将来は建設業の一員となつてもらいたい」と述べた。

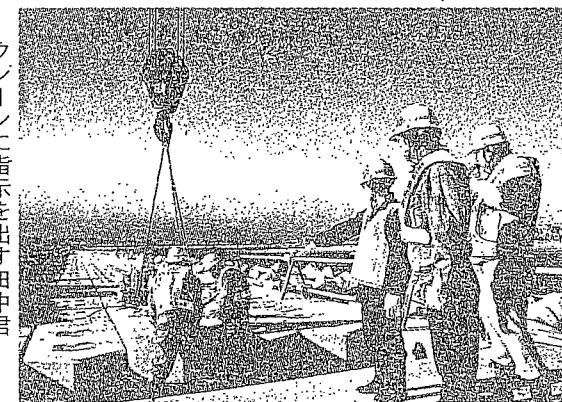
建設新聞

東北整備局と
宮建協が開催 「将来の進路選択の一歩に」

東北地方整備局仙台河川国道事務所と宮城県建設業協会(佐藤博俊会長)は13日、名取川災害復旧工事閑上第6工区(宮城县名取市)で仙台市内の中学生を対象とした土木現場の作業体験を開催した。建設業界の担い手不足解消に向け、将来の進路選択の一つとして建設業に興味を持つてもらうべく計画したもの。これまでにも土木を学ぶ高校生や大学生のインターンシップなどを行ってきたが、進路が定まっていない中学生の現場作



測量機械の使い方を教わる鈴木君



クレーンに指示を出す田中君

中学生が現場作業を体験

業体験は初の試みだ。今回、作業を体験したのは仙台市立柳生中学校に通う中学2年生の鈴木悠矢くん(14歳)と田中秀汰くん(14歳)。2人は、10日から14日まで、仙台河川国道事務所で職場体験を行った。作業体験の舞台となつたのは東日本大震災で被災した名取川河口部の治水安全度の向上を目指し、嵩上げによる強化を施した新たな堤防を築造しているもの。施工は橋本店が担当しており、盛土をほぼ終え、現在

は海岸コンクリートブロックによる護岸工を進めている。当日はじめにコンクリートブロックの誘導を体験。鈴木くんがパソコンのモニターを確認しながら据え付け位置を田中くんに指示。田中くんがクレーンオペレーターに指示を伝え、正しい位置へと誘導した。その後は測量機械を使った宝探しに参加。2人で競いながらの宝の位置測定を通じて機械の扱いを学んだ。

体験を終え、鈴木くんは「将来の進路はまだ決めていないが、ほかの人のためにがんばる建設業を選択肢の一つにしたいと思う」。田中くんは「日本地図にも乗るような巨大な施設をつくる建設業にもやりがいを感じた」と話した。

中本一現場代理人は「現場は情報化施工が進み技術がどんどん発達している。コンピュータに慣れた若い方が知識を生かし、業界の発展に貢献してもらえば」と期待を込めた。なお、仙台河川国道事務所では今後、28日にも仙台湾南部海岸復旧工事の現場で中学生の体験学習を予定している。

は海岸コンクリートブロックによる護岸工を進めている。
当日はじめにコンクリートブロックの誘導を体験。鈴木くんがパソコンのモニターを確認しながら据え付け位置を田中くんに指示。田中くんがクレーンオペレーターに指示を伝え、正しい位置へと誘導した。その後は測量機械を使った宝探しに参加。2人で競いながらの宝の位置測定を通じて機械の扱いを学んだ。

体験を終え、鈴木くんは「将来の進路はまだ決めていないが、ほかの人のためにがんばる建設業を選択肢の一つにしたいと思う」。田中くんは「日本地図にも乗るような巨大な施設をつくる建設業にもやりがいを感じた」と話した。

中本一現場代理人は「現場は情報化施工が進み技術がどんどん発達している。コンピュータに慣れた若い方が知識を生かし、業界の発展に貢献してもらえば」と期待を込めた。なお、仙台河川国道事務所では今後、28日にも仙台湾南部海岸復旧工事の現場で中学生の体験学習を予定している。

中学生が復興現場で土木作業体験

「社会の役に立つ仕事」実感

仙台市立柳生中学校2年生の生徒による職場体験学習が13日、東日本大震災の復興現場で行われた。

東北地方整備局仙台河川国道事務所が、建設業界全体の扱い手確保の一環として開催したもの

地震津波で壊れた河川堤防の復旧工事。橋本店が施工を担当し、堤防の嵩上げ工事で粘り強い構造

の堤防建設を進めている。

職場体験は、「復興の現

場をみたい」と希望した田

中秀汰くんと鈴木悠矢く

んが参加。GPSを搭載し

たクレーンから誘導シス

テムを基に、コンクリート

ブロックの設置を体験した

ほか、測量機器を使い土に

埋めた力フセルを探し当

てる宝探しにも挑戦した。

体験を終え、「建設業が

人のためになる、すごく

いい仕事だと思った」

「今回の体験で将来、

社会に貢献できる仕

事に就きたい」と感

想を語った。

東北地方整備局仙台河川国道事務所が、建設業界全体の扱い手確保の一環として開催したもので、中学生に向戸を開いて開催。進路選択のひとつとして、建設業の仕事を興味を持つてもらおうと、宮城県建設業協会の協力を得て、体験型の現場見学会を行った。

現場は、名取市閑上で、

人とのためになる、すごい仕事だと思った」「今回の体験で将来、社会に貢献できる仕事をに就きたい」と感想を語った。

南北海岸復旧工事(施工II熱海建設)で仙台市立郡山中学校2年生による体験会も予定している。



【ハクワードブロックの設置を体験】

南北海岸復旧工事(施工II熱海建設)で仙台市立郡山中学校2年生による体験会も予定している。



仲間が後方で見守る中、測量にチャレンジする小林君(左)

現場見学会は、仙台市若林区荒浜地内の南蒲生浄化センターからほど近い海岸部で行われた。同地では、深沼第2復旧工事として、同社が津波で破壊された海岸堤防の復旧作業を進めている。

生徒3人に対しては、同社工務部の岸川季史工事主任らが中心となり、工事の進め方を紹介した後、築堤工事で必要となる丁張設置のやり方を指導した。丁張は、決められた構造物の正確な位置や高さを表すもので、現場で働く作業員が構造物を設ける際の目安となる。

中学生の職場体験 仙台河川

仙台湾南部

宮建協

熱海建設が測量手ほどき

国交省仙台河川国道事務所は、宮城県建設業協会と共催で、中学生の職場体験学習に協力した。先月28日には、体验型現場見学会として、仙台

市立郡山中学校の男子生徒3人を受け入れ、熱海建設(仙台市青葉区)の協力を得て仙台湾南部海岸の堤防復旧工事現場で、測量方法などを教えた。

打ち込み、3つの点を確保した。この3点を結ぶ形で板が張られ、丁張が出来上がると、先に同社の社員が設けた2つタ一からほど近い海岸部で行われた。同地では、深沼第2復旧工事として、同社が津波で破壊された海岸堤防の復旧作業を進めている。

生徒3人に対しては、同社工務部の岸川季史工事主任らが中心となり、工事の進め方を紹介した後、築堤工事で必要となる丁張設置のやり方を指導した。丁張は、決められた構造物の正確な位置や高さを表すもので、現場で働く作業員が構造物を設ける際の目安となる。

画面にそのデータ画像を映し出す操作を確認した。空から生徒3人の写真も撮影された。参加生徒の一人である小林俊介君は、もともと土木工事の仕事に興味があつたようであり、職場体験が「楽しかった」と感想を披露。「将来こういう仕事を目指したい」と土木作業の学習意欲を高めていた。

生徒らは、はじめにデータコレクターと呼ばれる測量機を使い、丁張を設ける位置を計器で導き出した位置に杭を打たれ、丁張が出来上がる。その後、同社の社員がマルチコプターと呼ばれる計測機を空に舞い上げ、3次元のデータを取得し、パソコンの画面にそのデータ画像を映し出す操作を確認した。空から生徒3人の写真も撮影された。参加生徒の一人である小林俊介君は、もともと土木工事の仕事に興味があつたようであり、職場体験が「楽しかった」と感想を披露。「将来こういう仕事を目指したい」と土木作業の学習意欲を高めていた。

建設新聞

と協
局 建
備 整

建設業をより身近に

中学生が現場作業を体験

東北地方整備局仙台河川国道事務所と宮城県建設業協会(佐藤博俊会長)は11月28日、仙台湾南部海岸災害復旧工事・深沼第2復旧工事(仙台市若林区荒浜地先)の現場で、仙台市立郡山中学校の生徒による土木現場の作業体験を開催した。建設業界の担い手不足解消における、将来の進路選択について建設業に興味を持つてもらおうと計画したもので、11月13日に引き続き今回が2回目。

作業を体験したのは郡山中に通う中学2年生の伊藤悠人くん、小林俊介くん、日下翔くんの3人で、11月26日から28日まで、仙台湾南部海岸復旧工事は、東日本大震災で被災した約29キロメートルの海岸堤防をより粘り強い構造へと改築するもの。深沼第2復旧工事は熱海建設が施工を担当している。

当日は初めて測量機械の使い方を学びながら丁張の設置を体験。3人が交代で位置出しをし、最後は3人で協力して丁張を作成した。その後はラジコンヘリによる画像計測の様子を体験。モニターに映しだされたマルチコプターの撮影映像や、映像の3次元情報を基にした図面作成の説明

整宮

で、仙台河川国道事務所で職場体験を行った。

「最初は国土交通省の仕事がどんなものかわからなかつたが、今回の作業を通じて自分の生活に身近なものだと思った」と話す中でも将来は建設業に就くのが夢だと言う小林くんは「色々な技術を体験できて楽しかった。建設業に就きたいという思いが強まつた」と満足気だつた。



測量機械の説明を受ける小林くん



3人で協力して丁張製作を体験